令和６年度　高松市立病院医療事故等の内容　　高松市立みんなの病院

区分	概要（代表例）	改善策
治療・処置	左大腿骨転子部骨折で観血的手術のため、手術開始前に神経ブロックを左大腿部に実施するところ、右大腿部に実施した。	麻酔導入前のタイムアウトを新たに追加した。 神経ブロックの手順に、エコーの設置位置を明記した。
治療・処置	出血性脳梗塞で緊急減圧開頭術中に、X 線不透過性のガーゼ１枚が紛失した。X 線撮影を行い遺残はないことを確認した。	術中のガーゼカウントを行うタイムアウトを設定した。 脳外科の開頭術で使用するガーゼは、X 線不透過性のガーゼ 2 種類に限定した。
治療・処置	2 年前に左慢性中耳炎で鼓膜形成術を実施し、術後に鼓膜癒着防止のため、1 か月に 1 回通気処置を行っていた。処置後に意識障害、右上下肢麻痺、構音障害が出現し、耳管通気に伴う空気塞栓を発症した。	ごく稀な合併症である、空気塞栓による脳梗塞が発生するため、原則通気処置以外で対応する。 通気処置が有効と判断された場合は、空気塞栓による脳梗塞等を記載した同意書を用いて、説明と同意を得て、細心の注意を払い、慎重に処置を行う。
ドレーン・チューブ	症候性てんかんで入院中の患者が、透析室で透析中に、返血側の針を自己抜針しているところを発見した。	自己抜針のリスクが予測される場合、出血監視装置を装着する。 入院部署と、患者の自己抜針のリスク等の情報共有を行う。
検査	持続血糖測定器を装着したまま、禁忌である MRI 検査を実施した。	MRI 問診票に、持続血糖測定器装着の有無を確認する項目を追加表記した。 院内職員へ、持続血糖測定器装着による検査の注意事項を周知した。 放射線科外来に、持続血糖測定器等の装着による検査の注意事項を掲示した。
薬剤	他院から胃瘻造設目的で紹介され入院した。内服を確認したところ、抗血小板薬の休薬期間が不足しており、胃瘻造設が 2 日延長した。	紹介元の病院へ今回の事例を情報共有し、転院の依頼の際は休薬等の情報共有と、計画的な検査・処置を行うため、地域医療・患者支援センターを通すよう依頼した。

塩江分院

区分	概要（代表例）	改善策
療養上の世話	右親指関節粘液嚢腫の壊死後、創部の処置にて外来通院中。 処置前に医師から看護師に、爪切りの指示があった。爪の状態は肥厚していたが、看護師は実施可能と考え行ったところ、皮膚裂創させた。	爪切りの実施について、看護師の可能な範囲を定め、技術トレーニングを図る。 爪の状態により、看護師の実施が困難と判断した場合は、医師に報告し担当医師が実施等を判断する。